

PDF テスト文書そのⅠ

日本語のⅠ

ファイル番号5

ある日の暮方の事である。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。

広い門の下には、この男のほかには誰もいない。ただ、所々丹塗の
剥げた、大きな円柱に、まるばしら 蟻きりぎりす 蟀が一匹とまっている。羅生門が、
朱雀大路にある以上は、この男のほかにも、雨やみをする市女笠
もみ
や揉烏帽子が、もう二三人はありそうなものである。それが、この
男のほかには誰もいない。

——芥川龍之介『羅生門』より